

中期的目標と進捗状況

コーポレートガバナンス

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
コーポレート・ガバナンスの強化	議決権行使の電子化、プラットフォームへの参加、広義の招集通知の一部WEB開示などを行う。	議決権行使の電子化実施、東証プラットフォームへの参加、招集通知の一部WEB開示を実施。	○	2015年に施行された改正会社法および、コーポレートガバナンスコードに対応する。

革新的な医薬品

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
革新的な医薬品の研究・開発	独自の手法による創薬活動、スピーディーな臨床開発、積極的なライセンス活動。	産学連携研究ネットワークの構築、新製品2品目の発売、1品目の適応追加の承認を取得した。	○	引き続き革新的な医薬品の創出活動を行う。
適正なマーケティング活動	医薬品の適正使用と普及を行う。	安全性適正使用情報の収集・伝達活動の迅速化、WEB活用による医療・医薬品情報の提供を行った。	○	引き続き最新のデータに基づいて適正な方法で情報提供活動の推進を行う。
製品のグローバル供給	アジアへの自社ブランド製品供給の準備を行う。	グローバル対応の品質保証体制を確立した。	○	引き続きアジアへの自社ブランド製品の供給を行う。
抗体製品の安定供給	自社製造の抗体製品の供給を行う。	抗体製品の自社製造と日本市場への製品供給を開始した。	○	自社製造の抗体製品供給を海外に展開する。

人財・人権

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
人財育成の体制強化	【採用関連】 インターンシップや座談会の実施、および選考フローの多様化をはかり、必要な人財を確保する。	3クール of インターンシップを実施した。また、選考フローの見直しを行った。	○	環境変化に対応した人財採用フローを策定し、実践する。
	【教育研修関連】 これまで実施した各種教育研修の検証を行い、よりよい研修を企画・立案し、運営する。	人財育成につながる有用な研修を実施することができた。	○	各種研修のさらなる見直しとニーズに合致した効果的な研修を企画し、実践する。
	【自己啓発学習】 社員への通信教育の受講を促進する。	通信教育講座へのさらなる参加促進活動が必要であった。	△	通信教育の啓蒙活動およびプログラムの充実、案内および申込みのWEB化を推進する。
人権の尊重	事業活動のあらゆる側面において、人権を尊重し、行動する。これまでの人事ポリシーにもとづいて、人事制度の構築と運営を進めていく。	人事ポリシーにもとづき、制度の構築や運営を行った。	○	引き続き、これまでの人事ポリシーにもとづいて、人事制度の運営と検証を進めていく。
	コンプライアンス研修を実施し、ハラスメントの防止につなげる。	ハラスメントについても防止を目的とし、ライン長に対するコンプライアンス研修を実施した。	○	コンプライアンス研修を実施し、ハラスメントの防止につなげる。

環境

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
2020年度のCO ₂ 排出量を2005年度比で23%削減 ※対象範囲:生産事業所および研究所	2020年度までに2005年度比23%削減を目標とし、事業所ごとの活動を推進する。	エネルギー使用量は2005年度比で6.1%削減できたが、原子力発電所の運転停止によりCO ₂ 排出量は、2005年度比で5.7%増加した。	○	2020年度のCO ₂ 排出量を2005年度比で23%削減達成するために、事業所ごとの活動を推進する。
PRTR法第1種指定化学物質の環境への排出量抑制に取り組む。	化学物質の適正管理を維持・継続する。	化合物の精製方法を変更することによりノルマルヘキサンの取扱量を前年度比16.4%削減した。	○	化学物質の適正管理を維持・継続する。
廃棄物最終処分量を2015年度までに、2010年度の40%まで削減 ※対象:生産事業所および研究所	廃棄物の適正管理を維持・継続する。	最終処分量は、2010年度の18tに対し2014年度には13tと27.8%削減達成した。	○	廃棄物の適正管理を維持・継続する。
環境事故や地域社会からの苦情がないよう取り組みを継続	汚染物質の適正管理を維持・継続する。	排出基準の逸脱や地域社会からの苦情はなかった。	○	汚染物質の適正管理を維持・継続する。
環境省ガイドライン遵守	環境効率性の評価を継続する。	設備の増設等により、2005年度に比較して環境効率性が19.8ポイント悪化した。 ※対象:生産事業所および研究所	△	2014年度に引き続き環境効率性の評価を継続する。
地域社会の美化活動、従業員の労災事故防止活動	生産事業所、研究所などの主要な事業所において周辺の美化活動を継続する。	地域社会の清掃キャンペーンや消防活動に参加した。また、労災事故防止活動として市の事業計画に参加した。	○	生産事業所、研究所などの主要な事業所において周辺の美化活動を継続する。労災事故防止活動として、市の事業計画への参加を継続する。

公正な事業慣行

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
CSR調達推進	当社CSR調達の考え方をお取引先へ浸透させる。	CSR報告書にて当社のCSR調達方針を公表した。	△	当社CSR調達考え方をお取引先へ浸透させる。
コンプライアンス違反ゼロ活動	コンプライアンス違反をゼロにする。	潜在事例の掘り起し等を強化したが、減少には至らなかった。	△	研修活動等で、個人の抑止意識、組織の相互監視を通じた、未然・再発防止を目的とした推進活動を行う。

社会

評価基準 ○:進捗 △:ある程度進捗 ×:未達

中期的目標	2014年度 活動計画	2014年度 活動結果	評価	2015年度 活動計画
企業市民として積極的な コミュニティへの参画	地域貢献活動の充実を図る。	地域への貢献事業とともに、「医療と健康」をテーマとした取り組みを開始した。	○	地域への貢献事業とともに、「医療と健康」をテーマとした取り組みを強化する。
	医療者への学術支援活動を行う。	大学への寄附講座開設で学術支援活動を継続して行った。	○	寄附講座による学術支援活動を継続する。
患者さんご家族の支援	患者団体への貢献を行う。	患者団体主催の講演会を支援した。	○	患者団体主催の講演会などを支援する。
	WEBによる医療情報の提供を行う。	ONOメディカルナビや「笑顔とこころでつながる認知症医療」「ONCOLOGY.jp」などのWEB医療情報を充実させた。	○	引き続きWEBによる医療情報の提供の充実を図る。
	疾患啓蒙/患者支援活動を行う。	認知症、リウマチ、糖尿病領域のWEBによる患者用疾患啓蒙活動を行うことで、疾患啓蒙活動を行った。	○	引き続きWEBによる患者疾患啓蒙活動の充実を図る。